

# 記入例

## 様式第5（第1条関係）

| 土地形質変更概要書                  |   |                             |             |                             |
|----------------------------|---|-----------------------------|-------------|-----------------------------|
| 施行地の現況                     | 現況傾斜  | 有 ・ 無                       | 隣地の地盤との関係   | 隣地地盤より<br>-1.0～+2.0m        |
| 施行の目的                      | 住宅建築のための宅地の造成   |                             |             |                             |
| 風致地区の区分<br>（緑地率）           | 第1種〈50%〉(a)   | 第2種〈40%〉(b)                 | 第3種〈30%〉(c) |                             |
| 区分別敷地面積                    | —   | 800 m <sup>2</sup>          | —           |                             |
| 敷地の合計面積(A)<br>=(a)+(b)+(c) | 800 m <sup>2</sup>  | 敷地に必要な緑地率                   | 40%         |                             |
| 木竹が保全される土地の面積（ア）           | 150 m <sup>2</sup>  | 行為地の所有別                     | 自己所有地 ・ 借地  |                             |
| 適切な植栽が行われる土地の面積（イ）         | 210 m <sup>2</sup>  | 緑地率（(ア)+(イ)）／(A)            | 45%         |                             |
| 有効な植栽等の本数及びその他の措置          | 高木 36本、低木 108本、その他（よう壁にはツタをはわせる）  |                             |             |                             |
| 木竹の処理方法                    | 既存の樹木はできるだけ残し、移植可能な樹木は造成地内で利用する。また、既存樹木のアカマツ（樹齢10年未満、2本、高さ3m）は伐採し、処理場へ運搬処理する。     |                             |             |                             |
| 土量及びその高さ                   | 切土  | 100 m <sup>3</sup><br>2.0 m | 盛土          | 150 m <sup>3</sup><br>1.0 m |
| 跡地の処理方法                    | 既存樹木に手をつけない部分は自然地形のまま残し、その他の部分は平坦地に造成する。造成部分は、できるだけ道路側や敷地周囲に適切な植栽を行い、良好な風致の維持を図る。 |                             |             |                             |
| その他参考事項                    |   |                             |             |                             |

- 備考 1 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。
- 2 有効な植栽等の本数及びその他の措置の欄において、その他の措置をする場合は、（ ）内に当該措置の内容及び面積を記入すること。
- 3 木竹の処理方法の欄には、木竹の種類、樹齢、本数、高さ及びその処理方法を記入すること。
- 4 必要があるときは、所要事項を調整して使用することができる。